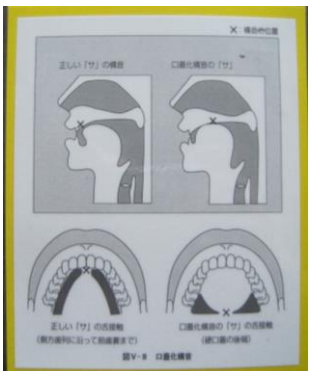
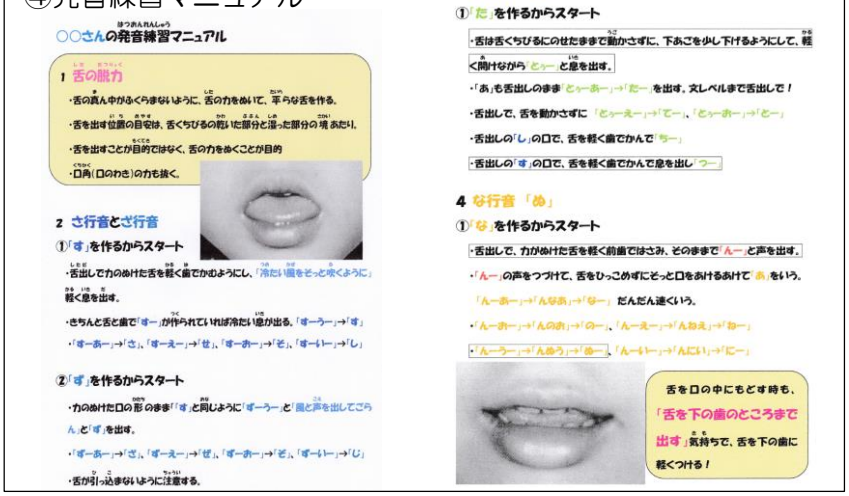
教材･支援機器活用実践事例

	実施年度	平成２７年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	「舌の真ん中の力をぬいて言おう」
	授業における 教師のねらい	○構音器官（口・舌・あご）の運動機能の向上 ○語音を聞き分ける力（自分の発音の正誤弁別）の向上 ○正しい構音方法の理解と発音の改善
	授業における 子どもの目標	○正しい構音の方法を習得し，正しい発音で会話ができる。 ・サ行音，タ行音，ナ行音，ザ行音
子どもについて	学級・学校・学年	通級による指導（ことばの教室）　小学生　　中学年
	対象の障がい	構音障がい（口蓋化構音）
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	本人は舌の真ん中が膨らんで言いにくい音があることに気づいているが，身近な人や友達，先生とよく話している。緊張する場面では無表情で話す。幼児期から発音指導を受けており，早く終了したいと思っている。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	【画像】 ① 口蓋模型 ②口蓋化構音の図  ③口の体操の双六や図 ⑤iPad カメラ･こころく ④発音練習マニュアル 
	活用のねらい	○発音時の口の状態を視覚的にとらえて，イメージできる。①② ○終了までの見通しをもって発音練習に取り組むことができる。④ ○自分の発音の状態を映像で振り返ったり，表情を確認したりできる。⑤
授業における支援 ・教材の配慮事項		○舌の脱力が発音改善のポイントなので毎時間口の体操を行うようにした。何度も楽しんで取り組めるようにお菓子や遊びの要素を取り入れた。③
子どもの変容や評価		本児用の発音練習マニュアルを見て，見通しをもって意欲的に練習に取り組み，スムーズに改善した。舌出しエでの舌の脱力，脱力した舌出しでのスの息だし，舌出しでのスの単音からの練習を丁寧に繰り返すことが王道で，発音改善の近道だった。年度末終了が認められ，笑顔で巣立った。